

めあて
古文に書かれている内容を理解しよう

1 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと①近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへ②あはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをか。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた③言ふべきにあらず。

(「枕草子」より)

一 文章中に「①近う」「③言ふ」とあるが、この歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して全てひらがなで書け。

二 文章中に「②あはれなり」とあるが、この語と同じような意味で使われているものとして最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書け。

- ア 彼女が体育大会で懸命に走る姿は見事だった。
- イ 彼の描く絵の美しさは心にしみるものがある。
- ウ 女の子が泣いていたのでかわいそうに思った。
- エ 小さな子どもが子犬と遊ぶ姿はかわいらしい。

三 次は、「枕草子」について話し合っている先生と生徒の会話である。①、②にあてはまる言葉を古文中からそれぞれ三字で抜き出して書け。

振り返り	三①	一①	先生… 清少納言が秋にふさわしいものとして考えていたものを、この文章から知ることができましたね。 生徒… はい。秋は夕暮れ時がすばらしいという感覚は、私たちのアンケートでも多数を占めた意見だったので、現代と共通した思いであることも分かりました。 先生… そうでしたね。鳥や雁が飛ぶ様子にも秋らしさを感じていると述べられていましたが、他には何が挙げられていましたか。 生徒… はい。(①) (や) (②) (も秋らしくてよいと述べられていました。
		一②	
	三②	二	